

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 1日

事業所名 JYU×JYUステーション

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			利用者が過ごしやすいように適切なスペースが確保できるように工夫している。	利用者の活動内容によって、部屋を使い分けたり、学習時は集中して取り組めるよう、静かな部屋を利用したりしている。
	2 職員の配置数は適切である	7			基準よりも多くなるように職員を配置している。	中心となる職員だけでなく、パートの職員を入れて利用者が安心して過ごせるように配慮している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			7		現在、バリアフリー化の必要な利用者が来ていないため、バリアフリーの措置が必要な時は相談して取り入れるかを検討していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			全体ミーティングだけでなく、療育開始前や送迎終了後等の中、ケース会議や療育の振り返りを行い、PDCAサイクルを意識して取り組む様になっている。	今後も日頃の療育の振り返りや、利用者の目標設定に活かしていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			年度末の時期にアンケートを配布し、事業改善の手立てにしている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			集計後、HPにて公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			7		今年度は実地指導もあり、指摘された箇所も早急に修正し、業務の改善に努めていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			事業所内研修だけでなく、外部の研修や動画視聴型の研修にも参加している。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			定期的に職員から聞き取りを行い、児発管だけでなく、職員にも作成した放課後等デイサービス計画を周知し、共通理解を持つようになっている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			7	利用者の聞き取りの際に、事業所のアセスメントシートを使用し、他の職員でも分かりやすく利用者の適応行動の状況把握が出来る様になっている。	どの職員でも使用できるように、様式の見直しや項目の変更等、事業所の利用者の適応行動をしっかりと把握出来るように見直しも行っていきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7			毎週火曜日に全体ミーティングを開催し、事業所の職員で活動の立案を行っている。	今度は主体ミーティングだけでなく、日々の療育の中で利用者の様子や活動を踏まえ、日頃から活動プログラムの意見を職員同士で出し合えるような雰囲気づくりにしていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			利用者の活動が固定化されないように、職員同士で意見を出し合いながら活動内容を決定し、支援を行っている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			生徒との関わり方や職員の連携、制作の内容、お出かけの場所、学習の取り組み方等、利用者が取り組みやすいように職員間で検討している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			日々の利用者との関わりの中で、全体ミーティングや事例検討会を開催し、放課後等サービス計画の手立てにしている。	今後も引き続き事業所の職員が参加する中で、利用者の姿を様々な視点から意見を出してもらい、放課後等デイサービス計画を作成していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			利用者の来所前に、職員同士で送迎の確認や活動の流れ、担当する職員の確認を行っている。	今後も利用者の来所前に、送迎の確認や活動の流れ、担当する利用者の確認を全体だけでなく一人ひとりと確認するように行く。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			支援終了時に、利用者の事業所内での様子や活動内容、その時にどのように関わった等、職員での支援の振り返りや気づいたことを出すように取り組んでいる。	送迎の関係で定時が過ぎてしまうこともあるため、その場合は次の日に送迎開始前の確認と合わせて必ず引継ぎをするようにする。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			その時の利用者の様子や、いつもと違うことがあったら職員間で意見や気づいたことを出し合い、それを記録し検討・改善に繋げている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			定期的にモニタリングに参加し、職員で内容の検討後、必要に応じて対応している。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7			ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を実施している。	ガイドラインの総則の基本活動について、まだ職員への周知が不足しているため改善していきたい。

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	7			事前に職員から、利用者の事業所で の様子やアセスメント用紙を使って利 用者の行動把握をし、管理者が会議 に参加している。難しい時は利用者 との関わりが深い職員が会議に参加 するようにしている。	今後も、職員同士で意見を出し合い、会議には管理者 か その利用者との関わりが深い職員が参加するようにし ていく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連 絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡）を適切に行っている	7			その都度、学校・担 任の先生との情報交 換や連携を図ってい る。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている			7		現在、医療的ケアの必要な利用者は事業所を利用し ていないため、もし新規の利用者で医療的ケアの必要 な方が来られた時は検討していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている		7		小学校～中学生の利用者が多 いため、在学する学校の担任や 相談支援事業所、他の事業所 との情報の共有をその都度行っ ている。	今後も利用者の関係者・関係機関と連携を図り、相互 理解に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している		7		移行の際は、利用者 の 担当をしている相談 支援事業所を通して 情報の提供や共有を 行っています	今後も移行の際は、利用者の担当をしている相談支 援事業所を通して情報の提供や共有を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている		7			専門機関との連携を今後検討していき、支援の助言や 研修にも積極的に参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	7			事業所の利用人数や 活動の内容によっ て、 交流の機会が持てる ようにしている	何度か交流する機会を計画したが、時期やタイミング が合わないことも多かったため、今後も他の児童館と の交流を計画していきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加 している			7		なかなか協議会への参加が出来ていないので、事前 にスケジュール等を調べて参加出来るようにしていく。
保護者への説明 責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	7			利用者にもいつも違う変 化が見られた場合、保 護者に連絡・報告する ように取り組んでいる。	モニタリングでの情報共有だけでなく、電話やメールでの確認 や、 送迎時に利用者のその日の様子やこれからの目標について も 双方で共通理解が持てるように取り組んでいきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	7			家庭での利用者への関わり方 や声かけの仕方等、育児の相 談も 多く寄せられているので、その 都度支援を行っている。	ペアレントトレーニングの観点からはまだ行ってない ので、専門性を高めるため、研修等に積極的に参加し ていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	7			支援の内容や利用者負担等 の説明では、保護者が分かりやす く、納得が得られるように丁寧 に説明している。	職員にも運営規定、支援の内容、利用者負担等につ いて周知し、保護者から説明を求められた際に対応出 来るようにしておく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っ ている	7			家庭での利用者への関わり方 や声かけの仕方等、育児の相 談も 多く寄せられているので、その 都度支援を行っている。	今後も家庭からの悩みや相談に対して、 必要に応じて助言や支援を行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している			7		現在は開催していないが、保護者から一定以上の意 見が出た際には事業所でも検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	7			事業所への電話やメー ルだけでなく、事業所 の方にも苦情箱を設置し、 苦情があった場合は早 急に対応している。	苦情が出た場合は、管理者と対応を検討 し、 早急に対応するようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	7			定期的にお便りを発 行し、活動内容や行 事の予定、連絡体制 等を周知している。	
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	7			利用者が分かりやすく、聞き取 りやすいように配慮しながら伝 えるようにしている。また保護者 への連絡も電話やメール等で対 応している。	利用者によっては複数回確認を行った等、特性に応じて配慮をし、保護者に対 しては、 行事や準備が必要な物は前もってお知らせするようにしていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に関わった事業運営を図っている			7	事業所を使うので地域交流は まだ 行っていないが、地域でのイベ ント には出来るだけ参加し、地域交	様々な利用者が事業所を利用しているため、今後も慎 重に検討したい。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		7			各種マニュアルを策定してあるので、職員や保護者の理解が得られるように周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			年に2回の避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			虐待防止委員会を中心に研修を進めています。	社内研修だけでなく、外部の研修にも参加し、職員の専門性の向上に努めていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		7			原則として身体拘束は行わないが、やむを得ず身体拘束をせざるを得ない場合は、事前に委員会を通して保護者への説明をし、身体拘束を行った場合は、指針に記載された手順に則って手続きを進め、記録用紙に記録し、その後の経過観察を行っていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7				現在、食物アレルギーを持ち、医者からの指示が必要な利用者がいないため、今後そういった指示書がある利用者が来られた場合は職員間での情報の共有をし、指示書を基に支援を行っていきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			ヒヤリハットを作成してあるの中で、危険な場面や箇所を記録し、事業所の職員間で共通理解を	記録として残した事例を、全体ミーティング等で全職員に周知するようしていく。